

金砂神社の大柁

ひいらぎ

(ひたちなか市)

昭和60年5月掲載

むかし、堀口村(現在の勝田市堀口)に住んでいた五人兄弟が、久慈の金砂神社から分祀(ぶんせし)〔本社から霊を分けてまつること〕し、地元になしく神社をつくることにしました。兄弟はその記念にと、自分たちと同じ数の五株の柁を境内に植えることにしました。

しばらくして、神社も立派にできあがり、分祀祭を行うことになりました。

当日、村の人々も大勢集まり、祭事を進めていると、にわかにな空が暗くなり、雷をともなつたはげしい雨が降り始めました。

すると、不思議なことに、天をさくようにして黒雲に乗った五頭の竜が降りてきたのです。

兄弟も村人たちも、突然のことに驚くのも忘れてじっと見守りました。

竜たちは、それぞれ五本の柁の上に降りたち、まるで分祀祭を監視しに来たかのようにでした。

村人たちは気をとりなおし、祭事を続けることにしました。

そして無事祭事が済むと、竜たちはふたたび天に昇っていったという事です。

これは、堀口の金砂神社の境内に群生している大柁にまつわる話です。

直径一メートルから三メートルもある幹に、大藤がからみついていては、まるで竜が天に昇っていくように見えるのです。

この柁は、樹齢七五〇年ともいわれ、県の天然記念物に指定されています。



萬